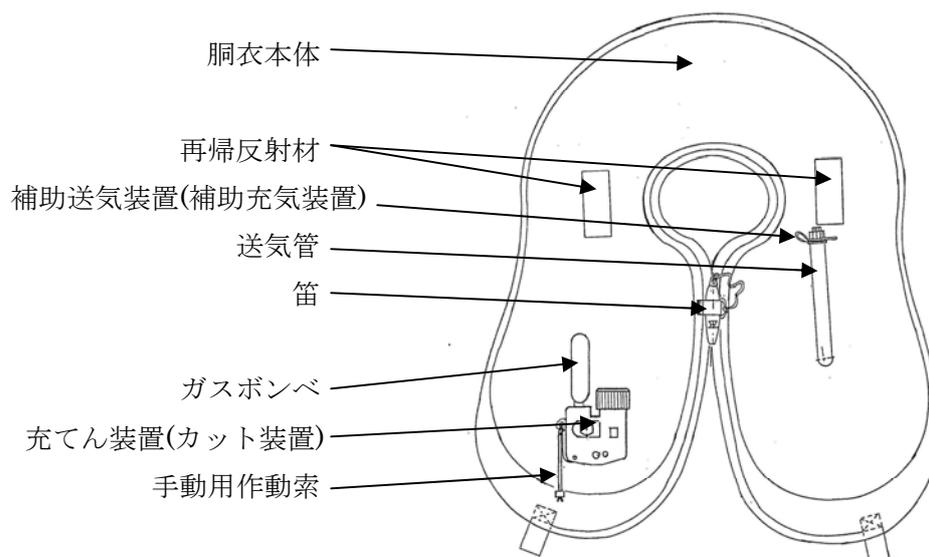


膨脹式救命胴衣等の自己点検整備要領

社団法人日本船舶品質管理協会

1. 膨脹式救命胴衣等の構造等

(1) 図解説明 (例)



(2) 膨脹・作動方法

1) 手動膨脹型

膨脹装置の作動索を強く引くことでボンベ内の炭酸ガス等が放出し、気室を膨脹させます。

(注) なるべく、船上で膨脹させてください。

2) 手動・自動膨脹型

膨脹装置の作動索を強く引くことでボンベ内の炭酸ガス等が放出し、気室を膨脹させます。

水中に落水すると本体に取り付けてある自動膨脹装置に水が入って作動・膨脹します。

2. 安全のための注意事項

(1) 一般的な注意

1) 浮体となる気室に傷を付けないでください。

2) 膨脹装置を一度作動(手動または自動により)させると、炭酸ガスボンベ等(以下、ボンベという。)のガスがなくなり、再使用できません。ボンベと、自動膨脹の場合はさらに スプール、マガジン又はカートリッジを交換してください。

- 3) 炭酸ガス等は吸い込まないように注意してください。
- 4) 使用後の汚れ取りにアルコール等の薬品を使用しないでください。

(2) 保管上の注意

- 1) 使用後はよく乾かしてから保管してください。
- 2) 直射日光の当たる場所等高温のところに長時間置くと膨脹時間がのびることがあります。
- 3) 手動・自動膨脹型を湿気の多い場所や雨ざらしの場所に放置しますと、水分を感知して膨脹しますので注意してください。
- 4) 暖房装置のそばなど高温の場所に置かないでください。
- 5) 重いもの下になる場所には置かないでください。
- 6) ネズミの害のある場所は避けてください。
- 7) 長期間保管する場合には、ハンガー等に吊り下げて保管してください。

3. ユーザー点検

定期点検をチェックリスト（次ページ参照）に基づき1年に1回必ず行ってください。

4. 交換の目安

(1) 胴衣本体

- 1) 胴衣本体（気室）が破損しているとき。
- 2) 補助送気装置（補助充気装置）及び送気管が破損しているとき。
- 3) 腰ベルト及びバックルが破損しているとき。
- 4) カバー布が破れたとき。
- 5) 表面が油等の汚れで表示が見えなくなったとき。
- 6) 本体または付属品の縫製糸がほつれたり、切れたとき。

(2) 膨脹装置

手動・自動膨脹型の場合、膨脹式救命胴衣等を使用したときまたは製造者の推奨する期間を経過したときには、スプール、マガジン又はカートリッジを交換してください。（取扱説明書参照）

5. 点検後の確認

- (1) 本体が保護カバーに正しく収納されていること。
- (2) 作動索（握り玉）が保護カバーの正しい位置より出ていること。

ユーザーが行うチェックリスト

点検時期…定期点検（1年に1回）、使用後または膨脹後の整備点検時

| No. | 部 位 | 点検項目 | 点 検 内 容 | 点検結果 | 日 付 |
|-----|--------------------|-----------------|---|------|-----|
| 1 | 胴衣本体 | 外観・目視 | 1) 気室表面、縫製部、布ファスナー等 (傷、劣化の有無) 2) 色、標示、再帰反射材(変色、劣化、傷の有無) | | |
| | | 漏洩試験 (1年に1回) | **送気管より、口で気室をばんばんに膨らませます。 圧力をかけたままで3時間以上放置する。 圧力が抜けなければ合格とする。 | | |
| 2 | 手動膨脹装置 (炭酸ガス) | 外観・目視 | 1) ガスポンベの封板 (穴の有無、穴があれば交換*) 2) 充てん装置 (カット装置) (破損の有無) 3) 手動レバーが正しい位置にあること。 4) シールピンの有無 | | |
| 3 | 手動・自動膨脹装置 | 外観・目視 | 1) ガスポンベの封板 (穴の有無、穴があれば交換*) 2) 充てん装置 (カット装置) (破損の有無) 3) スプール (溶解の有無、溶解の場合は部品交換*) 4) 手動レバーが正しい位置にあること。 5) シールピンの有無 | | |
| 4 | 補助送気装置 (補助充気装置) | 外観・目視 | 1) 送気管及び吸排気弁・キャップ (破損、ひび割れ、ゆるみ等の有無) | | |
| 5 | 本体付属品 | 外観・目視 | 1) ボタン、バックル、ベルト (破損、傷、劣化、機能障害の有無) 2) 笛 (有無、音が出ることを確認する) | | |
| 6 | 保護カバー(外側) | 外観・目視 | 傷、穴がある時は交換 | | |

1) 点検内容項目に✓印を付し、結果欄に良否を記す。全ての点検結果が良の場合は引き続き使用できますが、一つでも合格していない項目がある場合は、その胴衣等は使用できません。販売店またはメーカーにご相談ください。

2) *は部品交換を示し、販売店又はメーカーから部品を取り寄せて交換可能です。(取扱説明書参照)

3) **は空気を最後まで抜き取り、収納する。(たとえば、掃除機による吸引等)

4) お手入れにあたっての注意

- a. 本体にポンベ、水感知部を付けた状態で水洗いしないでください。
- b. 塩分及び汚れは、中性洗剤で拭き取る程度にしてください。干す場合は常温で、日陰で干してください。
- c. 洗剤は中性洗剤以外は使用しないでください。
- d. 洗濯機での洗浄、ドライクリーニングは絶対にしないでください。
- e. 気室の表面を傷付けないよう注意してください。